



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。折りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2018. 3月第592号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市申村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

先月に引き続き、申命記より、み言葉が選ばれている。重ねて命じるという意味の「申命」記には、文字どおり、イスラエルの民に、神の与え給うた律法が、再び記されている。出エジプトの荒野の旅の始まりの時、モーセがシナイ山で、神から授けられた掟と法(出エジプト19章)が、今、約束の地を前にして、ヨルダン川の向こう側で、遺言を語るモーセによって再度命じられる。神との契約である「律法」は、イスラエル民族にとって、最も大切なものであることは間違いない。

しかし、この厳しい律法の教えに對し、主イエスキリストは、真つ向から挑戦していかれる。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。」(マルコ2:27) この主の言葉は、先月号でも触れたように安息日に、禁止されている労働である畑の麦を摘んだイエスの弟子たちをとがめた律法学者に向けて語られた。な

うことか、命を救うことか、殺すことか(マルコ3:4)と喝破する。その姿は、敵対者たちにとってまさに律法の破壊者のように見えたことだろう。しかしそれに対して、主ご自身はこう言うのだ。「わたしは来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思つてはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」(マタイ5:17)と。

友よ、果たして、私たちの口と心は、どこにあるのか。私たちの口は籠つていないか。私たちの心は曇つていないか。私たちの心は曇つていないか。かつて内村鑑三が、代表的日本人として紹介した人物に「中江藤樹」がいた。近江聖人と崇められ、日本の陽明学の祖とも称せられる彼は、一説によるとクリスチャンではなかったかとさえ言われている。その中江藤樹が愛した言葉に「致良知」というものがある。もともと人に備わっていた善悪の判断が、欲によって曇ってくる。その曇りを取り除いていくならば、人は自然と良き知恵を致す。「徳を持つこと望むなら、毎日善をしなければならぬ。一善すると一悪が去る。日々善をなせば、日々悪は去る。日が長くなれば夜が短くなるように、善をつとめるならば全ての悪は消え去る。」(内村鑑三著『代表的日本人 中江藤樹』より)

友よ、口と心の近くにある、この善をなすものとなるうよ。

瞑想

御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。

申30:14

主幹牧師 榎本 恵

愛知アシラム

井上 正勝

私は父親が戦死し、母と兄と私の三人家族でした。教会には小生のころから出席し、大学生の時に受洗し、父親代わりに親しんできました。

聖書の言っていることはわかるのですが、イエス様、家族に対しても人格関係が持てない。だから、イエス様との人格関係・信頼関



係を緊密にするためにアシラムの会に参加しました。

そこでは、レビ族の様に、どんな時にも礼拝し、毎朝御言葉を頂き祈りの火を絶やさな

い。今回愛知アシラムの会では18人が出席し、三つの班に分かれ、各班6名がファミ

リーとしてお互いに自分の課題を出し合う。与えられた聖書、ヨハネによる福音書8章をじっくり読み、そこから何を学んだか、また自分の課題に対しどのような受け止め方をしたかお互いに話し合

う。その後一年間お互いを思って祈り合う。この会を通して聖書の言葉が自分に語りかけた言葉として受け止める習慣を学んだ様に

第41回 阪神アシラム

えのもとやすこ感謝な事のうち4つ☆祈り込められた「母の家 ベテル」、そこでホッと一休み。そしてみことば。心の底からゆっくり整えられていくのを感じます。

☆お世話下さるシスター方とお交わり：年々深まり、ファミリーのようです。☆るつ子姉奏でるオル

ガン：天上の友を偲び、クリスマスへの祈りを合わせました。☆参加された先輩方から溢れ出ているのは：アシラムへの感謝と喜び！私も歳重ねる毎に、喜びと感謝を増しつつ携え行く者となり

たいです。阪神アシラム41年のともしびが、これかも灯され続きますよ

うに！！

第43回 年頭アシラム

待望祈禱下さった主と皆様に感謝致します。今回は、毎年 年頭アシラム翌日から次の年頭のためのお祈りを始めて下さっていた村上 勇兄のお便り(12月のご献金とともに

に書かれていた)をご紹介します。兄は今年の年頭翌日に召天されました(注：あとがき)。

なされる栄光の御業を拝することが出来ますように祈ります。てる子姉のご様子いかがでしょうか。神様の御心が成りますようにお祈り熱心に続けております。



村上 勇、英子ご夫妻



鈴木 一志
鈴木 明美
渡辺 美寿子
伊達 平和
池田 勝彦
松村 玲子
広瀬 公男
佐伯 利純子
片岡 フジ子
脇山 義和
関根 義夫
西本 美恵子
村瀬 俊夫
村上 富吉
狩野 光広
中島 和子
森 博
中村 武男
前田 栄子
樋口 洋子
長澤 ちひろ
チャペル 聖恵
根本 康子
根本 光太
根本 義和
大門 セイ子
富田 美栄
式 久恵
久 岩夫
藤本 キク江
藤本 章
宮崎 順子
廣島 高橋教会
相川 良子
大阪 聖書教室
守弘 士朗
大原 久
大原 隆三
星野 広子
星野 教子
澤大 治子
キリスト教会 勝美
木村 新市
木村 合同平和祈会
樫戸 神戸
石原 イエス団教会
石原 申良
石原 繁子
鳥谷 知恵
伊達 知恵
カフェ 聖書入門講座
南山 仲夫
藤田 増枝
藤田 康子
米田 歌子
米田 秀雄
平山 聡子
植松 枝子
水瀬 高子
竹下 茂男
小林 佳子
小林 由栄
小林 文隆
毛利 光江
木下 氏
木下 名
無 初子
金子 宮子
小林 憲子
小野 憲子
吉田 すみえ
金原 理
八木 多恵子
原田 博光
原田 和恵
沖田 隆
辻 優子
静岡 聖書教室
安仲 萌子
横尾 かず子
池谷 好江

アシュラム修道場生活記

その14

「料理当番」



伊達 平和

今回の生活記は、ここ修道場の料理当番事情を紹介しよう。朝はるんるん福音食堂で食べることが多く、昼は各自の出先で食べるので、料理当番は基本的に晩だけである。月曜日はちえ、火・水はとっしー、木はあっきー、金は筆者で土は各自、日はこうちゃんである（ただし、土・日・月のはるんるん福音食堂が開かれていないので、月の朝はちえ、土の朝は筆者が担当している）。この料理当番は人それぞれの個性がでて非常に面白い。

まず修道場のメンバーは料理が苦手な人とそうでない人に分かれる。苦手ではない人は、ちえ、とっしーである。ちえの料理はその時に冷蔵庫にある野菜を使った煮物など、一人暮らしの知恵を生かした、穏やかな料理が多い。とっしーは大学1年生ということもあり時間が比較的あるので、本を読んで色々なメニューに挑戦している。この間はオムライスを作ってくれたが、とてもおいしかった。料理を始めた時は、使いきれなかった出汁を豪快に流しに捨てたり、ふつうの出汁と出汁入り醤油の違いがわからずに後者を使った結果、殺人的に塩辛い焼きうどんを作ったりするなど、失敗も数多いが、この1年ビシバシ指導したので(?)随分うまくなった。「料理は毎日やっても苦にならない」との言質をとったので、今後に期待しているところだ。

一方苦手な組はあっきーとこうちゃんである。あっきーの場合は「おかずをもらってくる」能力を伸ばしている。幸いなことに木曜日はアシュラムセンターの常任運営委員会などのイベント事が多く発生するため、それが可能である。そんな彼だが、思いもよらずケーキ作りは楽しいようで、週に1、2回ケーキを作っている。こうちゃんもあっきーと同じく、もらってくる

能力に長けている。正確に言うと、彼の場合は「持たせたくなる」感じかもしれない。でも、料理は苦手そうだが、どういうわけかカスタードクリームを作るのがうまい。この2人のために、筆者は、次のアシュラム常任運営委員会で、ケーキ屋開業募金を提案しようと思ったが、実現するはずがないのでやめておく。食べたい人は彼らにリクエストをしてほしい。

この中で筆者は料理好きである。一人暮らしも長く、昔から食べることが好きなので、食べたいものを食べたい時に作りたい。しかし、この修道場の生活では週に2回しか料理をしなくてよい。このような状況では料理の時間が待ち遠しくてしょうがない。つまり、筆者にとって料理の悩みは楽しい悩みだ。「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな。」といわれても、楽しく悩んでいるので、まあいいかと思っている。

このように料理のことで悩む時間が増えたと、必然的に「自分にとって料理とは何か」ということを考えるようになる。例えば、カトリックの信仰をもつ料理研究家の辰巳芳子氏は「ものを食べるということは、人間が人間らしくあるための根源的な営み」（『食といのち』79頁）と書いているが、これは本当にそうだと思う。食べることや料理をすることは、自分にとっては食欲を満たすだけではなく、ましてや栄養を取る作業でもない。料理を通して自分を深く知ることでもあるし、作った人の心に出会うことでもある。もちろんいちいち「これを作ったるつ子さんの心は…」とか、考えるようになったというわけではないが、料理当番一つ通して、いろいろなことに気が付けるような、そんな日々を送っていきたいと思っている。



修道場の夕食は?ゲストも一緒に どんぶりメシ! 撮影 平和

井置 利男
山田 称子
三島真光教会
西本美恵子
雀部喜久子
吉田 高明
實 幸安
久遠基督教会
植草 榮一
有田 勝久
西川 利栄
菅原 博
前田 武男
大隅 徳雄
西澤 基子
熊野てい子
武曾 晴美
小林 保子
夏目 淑子
八木谷スミ子
岩波 久一
西田 章子
薬師寺保保
蔵内キヨエ
榎本 恵
榎本 康子
榎本 光太
朽木 順子
久保三千代
南山 伸夫
安楽 久
安楽 邦子
今村 芳雄
近藤 靖子
石ヶ森キエ
札幌
アシュラム
野口 洋子
木下 文隆
木下 光江
樋口 洋一
無 名 氏
丸山 美紀
田辺 明子
島 隆三
後宮 俊夫
後宮 松代
橋本るつ子
安仲 萌子
廣石 聡子
五井 純
村主 由美
柿崎江美子
小川 久恵
渡部 元
小泉登志江
安藤 豊子
渡辺 玲子
鎌田 達明
鎌田 絹子
85口
¥620,500

新修道場計
画のために
センター

クリスマス
フリーマーケット
1口
¥15,400

合計
251口
¥22,261,610

専いご献金、
ご献品、お祈り、
感謝いたします

三浦 俊二
片山 良明
松川 卓
松川 律子
持田 二郎
持田 裕子
海老沢ひろ子
小野 悦子
村主 由美
杉山 英一
伊谷 和美
東京聖書教室
二国 房子
橋 悦子
植村 蓉子
上田 勝
福江 義史
七野 栄子
森山 直子
加藤 和子
古川 富也
渡辺 玲子
岡田 博
黒澤ヒサ子
吉澤 昭男
鈴木 俊夫
多摩千恵子
159口
¥1,559,460

ヨセフ基金
吉田すみみ
加々美 要
李 菲玲
センター
クリスマス
礼拝
ちろば
牧師記念
チャペルタ礼拝
ちろば
アツちゃん・
シュラム君
6口
¥26,250

クリスマス献金
家形 日出
中谷 哲造
対馬 恵子
土屋 翠子
川島 睦子
岡村 諒子
波多 治子
三好 晴夫
前野 佳子
山田 芳穂
池谷 治朗
吉浦
キリスト教会
加藤 智恵
工藤 隆志
富山 桂子
千里山
キリスト教会
石井 美雪
武藤 久子
降矢 トヨ
無 名 氏
佐藤榮津子
市本 正
羽賀美左乃
杉山ミユキ
杉山 英理
高松
田村町教会
矢萩 直子
山陰アシュラム
和歌山
新生伝道所
小林 美代
代蔵 元江

主幹牧師の2018年ビジョン



ヨハネは預言者イザヤの言葉を用いて言った。「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。『主の道をまっすぐにせよ。』と。」 ヨハネ1:23

「どのように組織を作るのか」とか、「運動計画はどのように立てているか」などと聞かれる時、ついそうしたことに思いが傾くことがある。「わたしはキリストではない」と言いきったヨハネのように、自分の本分を超えないように、それがどんなに不都合であろうとも、「声」に終始していきたくと願っている。アシュラム運動が広がっていくのではなく、キリスト信徒一人一人の生活の中に、日々新しく主の養いを受ける密室が守られていくことを願いつつ、呼ばれる「声」としての使命に徹したい。

これが新しくアシュラム運動に専心した私の決意である。全国のアシュラムの友よ、どうか私のために祈ってほしい。また「密室」の喜びを証し、広げていく器となってほしい。やがてこのセンターの開所式の挙げられる日を望みつづ。

「彼は必ず栄え、わたしは衰える」(ヨハネ3:30)
(榎本保郎著「聴くこと祈ること」1975年11月より)

私たちアシュラムセンターにとりまして昨年2017年は、大きな節目の年でありました。初代主幹牧師榎本保郎が、ロスアンゼルスで天に召され40年を迎えたこの年の9月、私たちはその「召天40周年記念会」を神戸聖愛教会を会場に開催することができました。午前中の記念礼拝と講演会、そして夜の部のコンサートを合わせ、のべ400名以上の方々がこの記念行事に参加下さいました。また遠くインド、台湾をはじめ、全国各地からアシュラムの友が集い「第14回国際正義平和アシュラム」も合わせて行うことができました。この日のことは、クリスチャン新聞11月19日号にも大きく特集されています。しかし、この記念会は、決して榎本保郎という個人を記念することを目的としたものではありません。それよりはむしろ、一人の指導者を失い、もうこれでアシュラム運動も終わりだと、途方にくれていた私たちを、主はこうして導き給うたことを思い起こし、これからその主にのみ従い行くことを約束する時なのです。

「あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。(中略) この

四十年の間、あなたのまとう着物は古びず、足がはれることもなかった。あなたは、人が自分の子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを心に留めなさい。」(申命記8:2-5)

「思い起こすこと」これは、私たちキリスト者にとって、大変重要な言葉です。聖餐式で読まれる「わたしの記念としてこれを行いなさい。」(1コリント11:24)の「記念する」と訳されているギリシャ語「アナムネーシス」には「思い起こす」という意味があります。聖餐のパンとぶどう酒にあずかるたびに、私たちは主イエスキリストを記念し、私たちの救いの出来事を思い起こすのです。私の側に救われる理由があったのではなく、ただ神の一方的な憐みによって私たちは救われたことを、今一度心に刻み込むのです。

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。」(申命記7:6-8)

私たちが今回の榎本保郎牧師召天40周年記念に託した思いは、決して故人を偲ぶものでもなく、その業績を誇るものでもなく、ただ一つこの小さく乏しい群れを選び、愛された神の一方的な恵みを思い起こすために他ならないのです。95歳になる後宮俊夫牧師が、車椅子で参加された姿を見ながら、40年後の80周年には、私自身が96歳になることをしみじみと思いました。将来のことは誰にもわかりません。しかし、私たちはいつまでもこの主に従い通した先達たちの姿を思い起こし、自分たちもその戦列に加わっていく日を思い描くではありませんか。主は誓われた約束を決して忘れられることはない、その大いなる恵みをいつも思い起こしていきましょう。(続く)



後宮俊夫 松代ご夫妻
(記念会にて)

第7回 平和合同祈禱会 癒しのハーブと平和へのメッセージ(3)

12月7日・夕

キャロル・サック師

ヨハネの手紙一 4:19
121

わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

もう一人のクラスメイトはアディラといって、イスラエルのガリラヤ出身でした。彼女は自分の国がパレスチナ人に暴力を加えていることを悲しんでいました。イスラエルに帰ってから、近所のパレスチナ人が弾圧されたことに大変心を痛めていましたが、故郷の平和のために、エルサレム



キャロル師と朝食。笑顔のごちそう。
(早天祈禱会后、アンナ祈りの家にて)

の病院で音楽を捧げようと決心しました。アディラは言いました。「私は大きなことはできないけれど、自分の周りにいる一人一人に、心を尽くして寄り添うことはできる。それこそが、世界をよいものに変えていくために自分ができることだ、と信じています。」世界平和という概念は、一人の人間が、個人とし

て向き合うには、あまりに大きすぎます。けれども、目の前にいる人に対して、神様の助けを借りて、思いやりや優しさを、寛容や許しの心を持つことなら、私にもできます。マザー・テレサの言葉にもあります。

「私たちは、この世で大きいことはできません。小さなことを大きな愛を持って行うだけです」

長崎市の話に戻りましょう。みなさんよくご存知のように、ここは大きな悲劇の中心となった町です。浦上天主堂も大きな苦しみに見舞われました。昔、隠れキリシタンの拷問や迫害が行われました。そして、皮肉なことに、浦上天主堂は、原爆の標的となっていました。

3年前、思いがけない招待を受けて、吉永小百合さんが被爆者による詩の朗読をする間、ハーブを弾くことになりました。そのイベントは長崎市で開かれました。小百

合さんが最初に読んだ詩はこういうものでした。小百合さんは日本語で、次に英語でも朗読しました。

この世の罪を取り除く神の子羊。主よ、私を哀れんでください。この詩は、一人一人にふりかかる戦争の恐ろしさをリアルに表現し、私たちの心を打ちます。このイベントの打合せのために小百合さんと初めてお会いした時、アメリカ人である私に「詩の朗読に合わせ、ハーブを弾いてほしい」と言った彼女の思いに圧倒されました。あの恐ろしい原爆を落としたのは、私の国なのです。もちろん、日本にも罪がないとは言えないでしょう。しかしそれでも、私は、戦争という人間の悲劇に向き合い、私たち人間が犯してきた数々の罪の告白をする必要があると感じました。私たちがみんなが、世界で起こっている悲劇に加担しているのです。

(続く)

あとがき

第43回年頭アシシラムも祝福のうちに終わり、いよいよ明日から、ブラジル、ニューヨーク、そして台湾の伝道旅行へ出発する。約一ヶ月に渡り、センターを留守にするが、どうかこの間も主が私たちを守り、導いてくださることを祈っている。どうかみなさんも祈ってほしい。ところで1月31日に、今治時代からの古いアシシラムの友、村上勇兄が帰天されたという知らせを受けた。父の盟友としてアシシラム運動を見守り続けてくださった。今回の記念出版『聴くこと祈ること』も、村上兄の尽力で完成することができた。母、姉と共に翌2月1日に四国西条へ行き、遺されたご家族を訪ねた。どうか主の慰めがあるように。

(恵)



3月の聖書教室など

2(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 13:00)
4(日)	沖縄聖書教室 (嬉の里 17:30)
9(金)	札幌ミニアシュラム
10(土)	広野祈りの家 (兵庫三木市志染 猪瀬姉宅 13:00)
12(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル 13:30)
15(木)	常任運営委員会 (アシュラムセンター)
16(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター 11:00)
18(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会 (17:00)
20(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター 10:30)
22(木)	新さん祈りの家 (滋賀・湖南市 新千重子姉宅 10:00) NEW!!
26(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 14:00)
27(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F 10:30)
27(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学荊冠 14:00)
28(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 13:30)

3月のアシュラムなど

1(木)	第44回 松山アシュラム	089-983-1164
2(金)	奉仕者 寺尾雅生師	寺尾雅生師

4月のアシュラム予定

20(金) 21(土)	第25回 三重アシュラム(グリーンホテル) 0598-86-3939 奉仕者 櫻本恵師 会費13,000円 小林茂男・佳子
30(月)	第21回 阪神一日アシュラム(主恩教会) 0748-33-4030 奉仕者 櫻本恵師 会費2,000円 アシュラムセンター

4月以降のアシュラム予定

5月3～5日	第26回 盛岡・秋田アシュラム
5月3～5日	関東青年アシュラム
5月18～19日	第5回 北陸・金沢アシュラム
5月26日	第18回 愛知一日アシュラム
6月14日	第44回 加太アシュラム
6月23日前後	たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅
7月16日	福岡一日アシュラム
9月14～15日	新潟一泊アシュラム
9月26～28日	第6回 日光オリーブの里アシュラム
10月1～2日	第42回 山陰アシュラム
10月26～27日	第19回 愛知一泊アシュラム
11月14～16日	第42回 阪神アシュラム

みことば

日本キリスト教団
西川口教会牧師 (埼玉)

金田 佐久子

「主イエスに聴く

マタイ福音書第6章より」

(最終回) 16～18節

マタイ福音書第6章1節から18節までは、同じ言葉が繰り返されているのに気がつきます。まず、「偽善者のようであってはならない」。次いで、偽善者が「見てもらおうとして」いて、「人からほめられようとして」いると語られます。そのような彼らは「すでに報いを受けている」。人から尊敬され、良い評判を得ること、それが彼らの求めていた報いです。まさにその時、彼らは神からの報いを待ち望んではいないし、神の報いは彼らには与えられないのです。恐ろしいほどに厳粛な主のお言葉です。そして、まことの施し、あるいは祈り、断食を「隠れたところにおられるあなたの父」にささげる時、「隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる」との約束があります。さらにここでは「あなたは施しをするときは」(2節)、「あなたが祈るときは」(6節)、「あなたは、断食するとき」(17節)と語られていることも大切にしたいのです。これは「わたし」への主の言葉です。主の弟子一人ひとりが神の前に立つのです。今回の箇所は三番目の「断食」が主題です。偽善者は人に見られるために、見えないのしな顔つきをする、と言われたのは主イエスのユーモアかもしれません。かえってお祭りのときのように「頭に油をつけ、顔を洗え」と命じられます。断食は悔い改めのしるしです。主イエスがおいでになられたからには、悔い改めは喜びとなりました。主の弟子は断食の奉仕を感謝してささげるのです。



黒見姉 (前列中央) 宅にて「ちいろば祈りの家」集会。恵師、海外へ出発前。闘病中の姉を励まし祈り合う友と共に。



日光オリーブの里アシュラムに毎回お父様 (前列中央) と参加下さる佐久子師 (後列中央)

温かい「みことば」感謝の1年でした。4月からは山本悦子師 (下妻シャローム) に継がれます。